

特 251

42

230

200

昭和六年十月調

# 大日本山林會

有  
功  
金  
銀  
章  
創  
立  
二  
十  
五  
年  
記  
念  
金  
章  
繼  
續  
二  
十  
五  
年  
記  
念  
章

## 受領者一覽

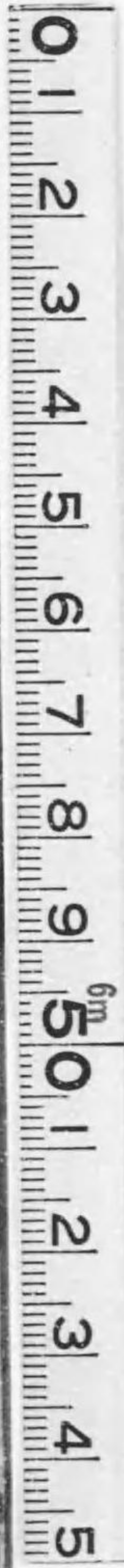
東京市赤坂區溜池町一番地

社  
團  
大  
日  
本  
山  
林  
會

342

230

# 始





特 251  
200

●大日本山林會有功章受領者氏名(印アルハ本會ニ對スル功績者)

大會回数	開催地	開催年月日	有功章受領者氏名
第十二回	奈良縣 奈良市 (縣會議事堂)	明治三十二年 七月十六日	有功金章 品川彌二郎 松野 彌 磯山廣居 中野 彌六 加藤英二郎 武井守正 山下常名 藤田克三 田邊輝實 有功銀章 山田 北原大發 智宮崎全 晃
第十三回	靜岡縣 安倍郡安東村 (臨濟寺)	同三十三年 七月七日	有功金章 田中芳男 本多靜六 田中 穰 土倉庄三郎 有功銀章 田中 穰 北村宗四郎 中野利右衛門 久次米庄三郎 福永得三
第十四回	青森縣 青森市 (高等小學校)	同三十四年 七月二十日	有功銀章 川瀬善太郎 高島得三 金原明善 宮島信吉 杉原龜三郎 新井秀徳
第十五回	愛知縣 名古屋市 (縣會議事堂)	同三十五年 十月十七日	有功銀章 道家充之村 田重治 佐々木 忠次郎 古橋源六郎
創立二十五 年紀念大會	東京市 (三會堂)	同三十九年 四月十五日	有功銀章 有田正盛 鈴木總兵衛 橋崎圭三 鈴木長之助 長谷川糾七 服部小十郎
第十八回	長野縣 上田市 (上田中學校)	同四十年 十月十六日	有功銀章 江崎政忠 和田國次郎 橋口正美 三溝謹平 三村鐘三郎 長島吾助 木村許一郎 松波秀實 中村三郎 松本忠次郎



第十九回	第二十回	第二十一回	第二十二回	第二十三回
秋田縣 秋田市 (記念公會堂)	京都市 (府會議事堂)	愛知縣 名古屋 (縣會議事堂)	石川縣 金澤市 (縣會議事堂)	北海道 札幌市 (議事堂)
明治四十一年 七月十八日	同四十二年 十月九日	同四十三年 五月十四日	同四十四年 四月八日	大正二年 八月十七日
追賞 有功銀章 田中勇太郎 東郷直望 月常 井上章慶 藤江再吉 栗田如茂 賀藤景林 久米幸三郎 飯島張邦 進藤繁吉 藤確介 林駒之助 諸戶北郎 佐藤銀五郎 內藤勝友 井坂直幹 樋口左文 齋藤字一郎 東條正吉 宮島多喜郎 永田正吉 岩倉雄太郎 以	追賞 有功銀章 齋藤勝藏 木村良 香川靜一 成川房幸 川崎安之助 堀田正逸 河原林義雄 山本源吉 江崎權兵衛 中島忠毅 丸山彌右衛門 近藤東右衛門 豐田成章 古橋暉兒 市川甚右衛門 新見應助 鈴木七郎右衛門	追賞 有功銀章 鹽澤健 右田半四郎 大島弘太郎 柴田榮吉 中谷内善權 小中定松 西村誠一 中崎與四右衛門 瀨戶與三郎 岡部七左衛門 布施豐藏 鹿野小四郎 小塚藤十郎	追賞 有功銀章 遠藤安太郎 堀尾茂助 橫山章 布施丑造 端山忠左衛門 坪井伊助 高田鐵三 最上谷慶次郎 金子元三郎 原六郎 小町佐吉 萱場余三郎 藤原銀次郎 小田柿捨次郎 熊谷字兵衛 阿部與之助	追賞 有功銀章 宮崎恒隆 吉井宗吉 森下元太郎 原伊代次 橋本宇太郎 谷庄内 和田熊三郎 大栗彦太郎 門田熊次郎 橫野長十郎 中邨彌六 志賀泰山 梅木正衛 殿岡嗽 山下久二

第二十四回	第二十五回	第二十六回	第二十七回	第二十八回	第二十九回	第三十回
德島縣 德島市 (千秋閣)	靜岡市 (師範學校)	島根縣 松江市 (高等女學校)	新潟縣 新潟市 (物産陳列館)	廣島縣 廣島市 (工業學校)	栃木縣 宇都宮市 (女子師範學校)	東京市 (帝國劇場)
大正三年 四月三日	同四年 四月十九日	同五年 七月十五日	同六年 七月二十日	同七年 十月十四日	同八年 十月十九日	同九年 四月十一日
追賞 有功銀章 宮崎恒隆 吉井宗吉 森下元太郎 原伊代次 橋本宇太郎 谷庄内 和田熊三郎 大栗彦太郎 門田熊次郎 橫野長十郎 中邨彌六 志賀泰山 梅木正衛 殿岡嗽 山下久二	追賞 有功銀章 堀田森藏 森王五郎 石川寅之丞 堀藤十郎 千代延聰建 田部長右衛門 若槻佐一郎 島根縣美濃郡匹見上村 島根縣周吉郡布施村 藤野孫一 大梶七兵衛 井上惠助 原玄琢	追賞 有功銀章 伊藤邦太郎 三谷平之助 宮崎辰之亟 渡邊三左衛門 平田豐次郎 渡邊哲也 佐藤榮吉 市島德次郎	追賞 有功銀章 田中喜代次 木村喬顯 平塚爲雄 關川重安 清谷角八 廣島縣山縣郡筒賀村	追賞 有功銀章 後藤眞咲 渡部勝意 津村昌一 森田俊左久 植竹三右衛門 矢板武 栃木縣芳賀郡逆川村 興野市左衛門 關根矢作 印南丈作 神山太一郎	追賞 有功銀章 武井守正 孕石泰鎮 堀餘所吉 小出房吉 奧田貞衛 東京府西多摩郡戸倉村 高城正次	追賞 有功銀章 高城正次 東京府西多摩郡戸倉村 小澤芳重



第三十一回	第三十二回	第三十三回	第三十四回	第三十五回	第三十六回
奈良縣 奈良市 (公會堂)	千葉縣 千葉市 武德殿	滋賀縣 大津市 (公會堂)	埼玉縣 川越市 (川越中學校)	群馬縣 前橋市 (公會堂)	朝鮮 京城府 (總督府)
大正十年 十月八日	同十一年 四月二十二日	同十二年 五月十日	同十三年 四月十二日	同十四年 十月十六日	同十五年 十月三日
有功銀章 高見澤 清 岡橋 清左衛門 北村 又左衛門 庄一 郎 永田 藤兵衛	有功銀章 寺崎 渡邊 全 小宮 小十郎 藤 直一郎 山本 八三郎 武市 森太郎 中尾 橋	有功銀章 河野 通介 塚本 定右衛門 中島 富次郎 西村 市良右衛門	有功銀章 辻本 正一 赤城山興業組合 飯塚 志賀 岡部 爲作	有功銀章 野村 雪 三井合名會社 住友合資會社 東洋拓植株式會社 株式會社大寶農林部 株式會社中村組農林部 片倉殖産株式會社	有功銀章 蘭部 一郎 石田 常英 掛場 定吉 村山 喜一郎 川口 利吉 小林 恒一郎 宮本 庄次郎 板谷 邦三郎 木村 傳兵衛 茨城縣那珂郡檜澤村 茨城縣鹿島郡波崎町

第三十七回	第三十八回	第三十九回	第四十回
茨城縣 水戸市 (公會堂)	臺灣 臺北市 (臺北高等商業學校)	青森縣 青森市 (公會堂)	山口縣 山口市 (白石小學校)
昭和三年 十月二十日	同四年 十月十六日	同五年 八月十日	同六年 十月十七日
有功銀章 漆山 雅喜 高須 時太郎 廖 速 長島 丈夫 田代 安定 關文 彦 尾崎 元次郎 盛田 喜平治 鈴木 武登馬	有功銀章 漆山 雅喜 高須 時太郎 廖 速 長島 丈夫 田代 安定 關文 彦 尾崎 元次郎 盛田 喜平治 鈴木 武登馬	有功銀章 川瀬 善太郎 武井 鈴男 西岡 太郎 東 岡太郎 田中 吉五郎 追賞 平田 元太郎	有功銀章 川瀬 善太郎 武井 鈴男 西岡 太郎 東 岡太郎 田中 吉五郎 追賞 平田 元太郎



# 大日本山林會有功章受領者氏名 (五十音別)

## 有功金章受領者

東京府 子爵品川彌二郎 明治三二年  
 同 松野 彌同 三二年  
 同 男爵田中芳男 同 三三年  
 同 林博中 郎 彌 六 大正四年  
 同 林博志 賀 泰 山 同 四年  
 同 男爵武井守正 同 九年  
 同 林博川 瀨 善 太郎 昭和六年

## 有功銀章受領者

アの部  
 栃木縣 新井秀徳 明治三四年  
 東京府 有田正盛 同 三九年  
 群馬縣 赤城山興業組合 大正十四年  
 青森縣 阿部誠一郎 昭和五年  
 北海道 東武 同 六年  
 イの部  
 愛知縣 磯山廣居 明治三二年

東京府 今川 肅 明治三三年  
 長野縣 井上章慶 同 四一年  
 秋田縣 井坂直幹 同 四二年  
 同 飯島張邦同 同 四二年  
 同 岩倉雄太郎 同 四二年  
 北海道 伊藤邦太郎 大正六年  
 東京府 石川寅之丞 同 五年  
 朝鮮 石田常英 昭和三年  
 茨城縣 板谷邦三 同 三年  
 奈良縣 岩本武助 同 五年  
 ウの部  
 德島縣 梅木正衛 大正四年  
 栃木縣 植竹三右衛門 同 八年  
 朝鮮 浦熊 吉 同 十五年  
 東京府 漆山雅喜 昭和四年  
 工の部  
 東京府 江崎政忠 明治四十年  
 京都府 江崎權兵衛 同 四三年  
 東京府 遠藤安太郎 大正二年  
 奈良縣 永田藤兵衛 同 十年  
 オの部  
 愛知縣 永田藤兵衛 同 十年

東京府 種田 邁 明治三二年  
 奈良縣 大浦佐太郎 同 三三年  
 愛知縣 大島弘太郎 同 四四年  
 德島縣 太栗彦太郎 大正三年  
 東京府 大寶正鑒 同 十三年  
 朝鮮 株式會社大寶農林部 同 十五年  
 臺灣 大石 浩 昭和五年  
 北海道 小田柿 捨次郎 大正二年  
 東京府 奥田貞衛 同 九年  
 臺灣 岡橋清左衛門 同 十年  
 臺灣 王振 東 昭和四年  
 靜岡縣 尾崎元次郎 同 五年  
 カの部  
 東京府 林博 河合錦太郎 明治三二年  
 京都府 河原林義雄 同 四三年  
 千葉縣 河野通介 大正十二年  
 東京府 林博 川瀨善太郎 明治三四年  
 京都府 川崎安之助 同 四三年  
 茨城縣 川口利吉 昭和三年  
 京都府 香川 靜一 明治四三年  
 東京府 加藤英二郎 同 三二年

東京府	賀田直治 昭和四年	臺灣	栗山忠男 昭和四年	栃木縣	芳賀郡 逆川村 大正八年
北海道	金子元三郎 大正二年	石川縣	小中定松 明治四四年	東京府	林博 志賀泰山 明治三二年
東京府	萱場榮三郎 同 二年	北海道	小町佐吉 大正二年	北海道	鹽澤 健 同 四四年
東京府	笠原小十郎 同 十年	同	小出房吉 同 九年	東京府	柴田榮吉 同 四四年
埼玉縣	柿原定吉 同 十三年	同	小宮小十郎 同 十一年	同	林博 白石澤保美 同 四十年
朝鮮	片倉殖産株式會社 同 十五年	茨城縣	小林恒一郎 昭和三年	臺灣	白石喜代次 昭和四年
同	掛場定吉 昭和三年	愛知縣	小館保次郎 同 五年	秋田縣	進藤繁吉 明治四二年
東京府	北原大發智 明治三二年	愛知縣	近藤東右衛門 明治四三年	青森縣	榛葉可省 昭和六年
奈良縣	北村宗四郎 同 三三年	朝鮮	後藤眞咲 大正八年	山口縣	杉 唯一 昭和六年
同	北村又左衛門 大正十年	臺灣	吳春義 昭和四年	靜岡縣	杉原龜三郎 明治三四年
東京府	木村許一郎 明治四十年	サの部	東京府 理博 佐々木 忠次郎 明治三五年	愛知縣	鈴木總兵衛 同 三九年
朝鮮	木村 良 同 四三年	同	林博 佐藤 五郎 同 四二年	長野縣	鈴木長之助 同 三九年
東京府	木村 喬 顯 大正七年	新潟縣	佐藤榮吉 大正六年	大阪府	住友合資會社 大正十五年
茨城縣	木村傳兵衛 昭和三年	京都府	佐藤彌太郎 同 十年	山口縣	隅 喜 作 昭和六年
廣島縣	清谷角八 大正七年	群馬縣	佐藤量平 同 十四年	石川縣	瀬戸與三郎 明治四四年
靜岡縣	金原明善 明治三四年	秋田縣	齋藤宇一郎 明治四二年	新潟縣	關川重安 大正七年
朝鮮	金基宅 大正十五年	滋賀縣	齋藤勝藏 同 四三年	臺灣	關 文 彦 昭和五年
クの部	久次米 庄三郎 明治三三年	千葉縣	齋藤 勝 藏 同 四三年	ソの部	東京府 林博 蘭部 一郎 昭和三年
德島縣	久米幸三郎 同 四二年	茨城縣	齋藤 勝 藏 同 四三年	東京府	田邊輝實 明治三二年
東京府	栗山 藤 作 大正十年	奈良縣	阪本仙次 大正十年	タの部	
千葉縣	楠 純 隆 大正十一年	愛知縣	三溝 謹平 明治四十年		
臺灣	國司道輔 昭和四年	青森縣	三戸郡 木炭同業組合 昭和五年		



北海道	田中	穰	明治三三年
長野縣	田中勇太郎	同	四一年
東京府	田中喜代次	大正七年	
山口縣	田中吉五郎	昭和六年	
北海道	田町與三郎	明治三四年	
島根縣	田部長右衛門	大正五年	
兵庫縣	多木衆次郎	同	十五年
朝鮮	多田榮吉	同	十五年
山口縣	高島得三	明治三四年	
北海道	高田鐵三	大正二年	
栃木縣	高田耘平	昭和六年	
東京府	高城正次	大正九年	
同	高見澤清	同	十年
臺灣	高須時太郎	昭和四年	
東京府	武井守正	明治三二年	
同	武井鈴男	昭和六年	
同	武市森太郎	大正十一年	
德島縣	谷庄内	同	三年
子部	千代延聰	大正五年	
朝鮮	趙雲	永	同十五年
岷阜縣	坪井伊助	大正二年	
廣島縣	山縣郡筒賀村	同	七年
廣島縣	津村昌一	大正八年	
滋賀縣	塚本定右衛門	同	十二年
沖繩縣	辻本正一	同	十四年
東京府	林博寺崎	渡	大正十一年
三重縣	土井幹夫	明治三二年	
奈良縣	土倉庄三郎	同	三三年
東京府	道家充之	同	三五年
同	東郷直	同	四一年
秋田縣	東條勝友	同	四二年
靜岡縣	殿岡嗽石	大正四年	
東京府	西多摩郡戸倉村	同	九年
朝鮮	東洋拓殖株式會社	同	十五年
ナ部	中邨彌六	明治三二年	
東京府	中村三郎	同	四十年
兵庫縣	中野利右衛門	明治三三年	
奈良縣	中野利三郎	大正十年	
同	中尾橋	同	十一年
滋賀縣	中島富次郎	大正十二年	
京都府	中島忠毅	明治四三年	
石川縣	中崎與四右衛門	明治四四年	
石川縣	中谷内善權	明治四四年	
東京府	長島吾助	同	四十年
臺灣	長島丈夫	昭和四年	
山口縣	長井德次郎	同	六年
東京府	永田正吉	明治四二年	
同	内藤確介	同	四二年
廣島縣	櫛崎圭三	同	三九年
愛媛縣	成川房幸	同	四三年
石川縣	西村誠一	明治四四年	
滋賀縣	西村市良右衛門	大正十二年	
青森縣	西岡太郎	昭和六年	
同	西館健敏	同	六年
三重縣	野村雪	大正十五年	
東京府	橋口正美	明治四十年	
德島縣	橋本字太郎	大正三年	
愛知縣	端山忠左衛門	同	二年
同	長谷川糾七	明治三九年	
東京府	長谷川鏡次	大正十年	
北海道	林駒之助	明治四二年	
三重縣	速水健治郎	昭和五年	
東京府	原六郎	大正二年	

德島縣	原伊代次	大正三年
福島縣	孕石泰鎮	同九年
愛知縣	服部小十郎	明治三九年
群馬縣	半田善四郎	大正十四年
朝鮮	半田農林部	同十五年
茨城縣	鹿島郡波崎町	昭和三年
ヒ部	樋口左文	明治四二年
秋田縣	日浦廣治	大正十五年
朝鮮	平田豐次郎	同六年
新潟縣	平塚爲雄	同七年
同	平沼源一郎	同十三年
埼玉縣	廣澤文庫	同十五年
朝鮮	美濃郡匹見上村	同五年
島根縣	那珂郡檜澤村	昭和三年
茨城縣	関泳	大正十五年
朝鮮	フ部	
石川縣	布施丑造	大正二年
島根縣	周吉郡布施村	同五年
東京府	藤田克三	明治三二年
長野縣	藤江再吉	同四一年
東京府	藤原銀次郎	大正二年
朝鮮	藤原繁治	同十五年
三重縣	福永得三	明治三三年
朝鮮	福島律次	大正十五年
愛知縣	古橋源六郎	明治三五年
東京府	林博本多	明治三三年
島根縣	堀藤十郎	大正五年
栃木縣	堀餘所吉	同九年
東京府	堀田正逸	明治四三年
靜岡縣	堀田森藏	大正五年
愛知縣	堀尾茂助	同二年
マ部	松尾六郎	大正十五年
朝鮮	松波秀實	明治四十年
東京府	松本忠次郎	同四十年
同	松本泰治	大正十一年
千葉縣	松本正巳	昭和六年
東京府	丸山彌右衛門	明治四三年
愛知縣	丸山喜兵衛	昭和四年
同	丸山佐四郎	同六年
東京府	ミ部	
東京府	三井合名會社	大正十五年
同	林博三村鐘三郎	明治四十年
島根縣	三谷平之助	大正六年
山口縣	三戸熊太	昭和六年
東京府	右田半四郎	明治四四年
東京府	宮崎全晃	明治三二年
北海道	宮崎恒隆	大正三年
東京府	宮崎辰之允	同六年
同	宮島信吉	明治三四年
同	宮島多喜郎	同四二年
茨城縣	宮本庄次郎	昭和三年
東京府	林博村田重治	明治三五年
秋田縣	村山喜一郎	昭和三年
モ部	最上谷慶次郎	大正二年
東京府	林博望月	明治四一年
同	森壬五郎	大正五年
廣島縣	森田俊左久	同八年
德島縣	森下元太郎	同三年
青森縣	盛田喜平治	昭和五年
東京府	林博諸戸北郎	明治四二年
栃木縣	矢板武	大正八年
東京府	山下常名	明治三二年
愛知縣	山下源吉	同四三年
靜岡縣	山下久二	大正四年
石川縣	ヨ部	
石川縣	横山章	大正二年



埼玉縣	橫川宗作	大正十三年	秋田縣	故賀藤景	林明治四一年	栃木縣	故興野市左衛門	大正八年
北海道	吉井宗吉	同三年	同	故栗田如茂	同四一年	同	故關根矢作	同八年
茨城縣	吉見辰三郎	昭和四年	同	故角倉了以	同四二年	同	故印南丈作	同八年
群馬縣	米田清助	大正十四年	同	故豐田成章	同四三年	東京府	故神山太一郎	同八年
臺灣	賴雲	昭和四年	京都府	故古橋暉兒	同四二年	奈良縣	故小澤芳重	同九年
朝鮮	李基	大正十五年	愛知縣	故市川甚右衛門	同四三年	千葉縣	故森庄一郎	同十年
同	李鳳	同十五年	同	故新見應助	同四三年	滋賀縣	故山本八三郎	同十一年
同	柳水	根同十五年	同	故鈴木七郎右衛門	同四三年	同	故西川作平	同十二年
臺灣	劉	尚昭和四年	石川縣	故小塚藤十郎	同四四年	同	故飯塚志賀	同十四年
同	廖	速同四年	同	故岡部七左衛門	同四四年	同	故岡部爲作	同十四年
同	林	富同四年	同	故布施豐藏	同四四年	朝鮮	故川崎藤太郎	同十五年
ワの部	和國次郎	明治四十年	同	故鹿野小四郎	同四四年	東京府	故田邊榮	昭和三年
東京府	和田熊三郎	大正三年	北海道	故熊谷宇兵衛	大正二年	同	故田代安定	同四年
德島縣	若槻佐一郎	同五年	同	故阿部與之助	同二年	臺灣	故小西成章	同四年
島根縣	渡部哲也	同六年	同	故門田熊次郎	同三年	同	故鈴木武登	馬同五年
新潟縣	渡部勝意	同八年	同	故榎野長十郎	同三年	山口縣	故平田元太郎	同六年
同	渡邊三左衛門	同六年	同	故藤野孫一	同五年			
東京府	渡邊全	同十一年	同	故大梶し兵衛	同五年			
臺灣	渡邊廣	昭和五年	同	故井上惠助	同五年			
千葉縣	藤直一郎	大正十一年	新潟縣	故市島德次郎	同六年			

追賞者

有功金章 七名  
 有功銀章 二五四名  
 追賞 三七名  
 計 二九八名  
 (有功金章受領者七名ノ内  
 五名ハ銀章ヲモ受領)

有功章贈與之證

氏名

林業(本會)ニ對シ功績特ニ顯著ナル  
 ヲ認メ永ク其名譽ヲ表彰セム力爲メ  
 大日本山林會有功銀(金)章ヲ贈與ス

年月日

大日本山林會總裁 御名印

氏名

林業(本會)ニ對シ功勞特ニ顯著ナル  
 ヲ認ム依テ其名譽ヲ表彰セム力爲メ  
 爰ニ之ヲ追賞ス

年月日

大日本山林會總裁 御名印



# ●大日本山林會創立二十五年記念章受領者

(明治三十九年四月十五日、於創立二十五年記念大會)

兵庫縣	池内真三雄	山口縣	嘉屋卯兵衛	東京府	松野 礪	三重縣	佐々部茂左衛門
福島縣	初瀬川健増	東京府	吉田清英	同	松永忠兵衛	東京府	北原大發智
静岡縣	伴 紹五郎	同	田中芳男	徳島縣	久次米 庄三郎	岐阜縣	宮 島 信 吉
東京府	外川常藏	同	武井守正	東京府	福永得三	東京府	澁澤榮一
長野縣	戸澤重見	同	高田慎藏	同	古市公威	大分縣	樋口魯一
三重縣	土井幹夫	三重縣	竹内泰臣	栃木縣	福岡彌五八	三重縣	諸 戸 清 六
東京府	太田徳九郎	東京府	立花寛治	愛媛縣	古橋源六郎	群馬縣	森 田 文 字
福島縣	大槻吉直	東京府	練木喜三	東京府	小疇次郎兵衛	東京府	關 宗 喜
東京府	大倉喜八郎	長野縣	野口吉十郎	同	江崎 政 忠	群馬縣	關根作三郎
同	種 田 邁	愛知縣	草鹿砥孫	同	穴山篤太郎		
新潟縣	岡 村 貢	島根縣	矢野 勉	神奈川	雨宮敬次郎		
神奈川	加藤英二郎	東京府	山元猪八	京都府	有馬 義 敬		
計四十五名							

## 創立二十五年記念銀章

(明治三十三年贈呈)



裏面



表面

### 府縣氏名

爰ニ創立二十五年記念總會ニ  
當リ本會創立以來會員トシテ  
盡サレタル功績ヲ表彰シ記念  
章ヲ贈ル

明治三十九年四月十五日

大日本山林會 印



有功章



章銀念記員會績繼上以年五十二

(呈贈年六和昭)

表面



一四

裏面



### ●大日本山林會名譽會員氏名

(昭和六年十一月現在)

東京府	伊谷以知次郎	東京府	男工博	古市公威	千葉縣	折原己一郎
同	入江魁	同	林博	本多靜六	山口縣	平井三男
同	岡本英太郎	同	同	牧朴真	福岡縣	中井勳作
同	上山滿之進	同	林博	三矢宮松		
同	林博	同	林博	村田重治		
同	林博	同	林博	和田國次郎		
同	志賀泰山	同	同	和吉川祐輝		
同	高橋琢也	同	農博	吉川祐輝		
同	平熊友明	大阪府		江崎政忠		
同	原保太郎	神奈川縣	子爵	金子堅太郎		
					計	二十一名





特別會員  
工學博士  
男 古市公威君

通會常員  
森田文字君

特別會員  
大阪府 江崎政忠君

● 大日本山林會 創立五十年記念金章受領者

- (各通)
- 特別會員 古市公威殿
  - 特別會員 江崎政忠殿
  - 通常會員 森田文字殿

本會創立以來會員ニ列シ會務ノ發展ニ寄與セラル茲ニ五十年記念式ヲ  
舉行スルニ方リ銀盃一箇並記念金章ヲ贈呈ス

昭和六年六月六日

社團 大日本山林會會長 川瀬善太郎 印

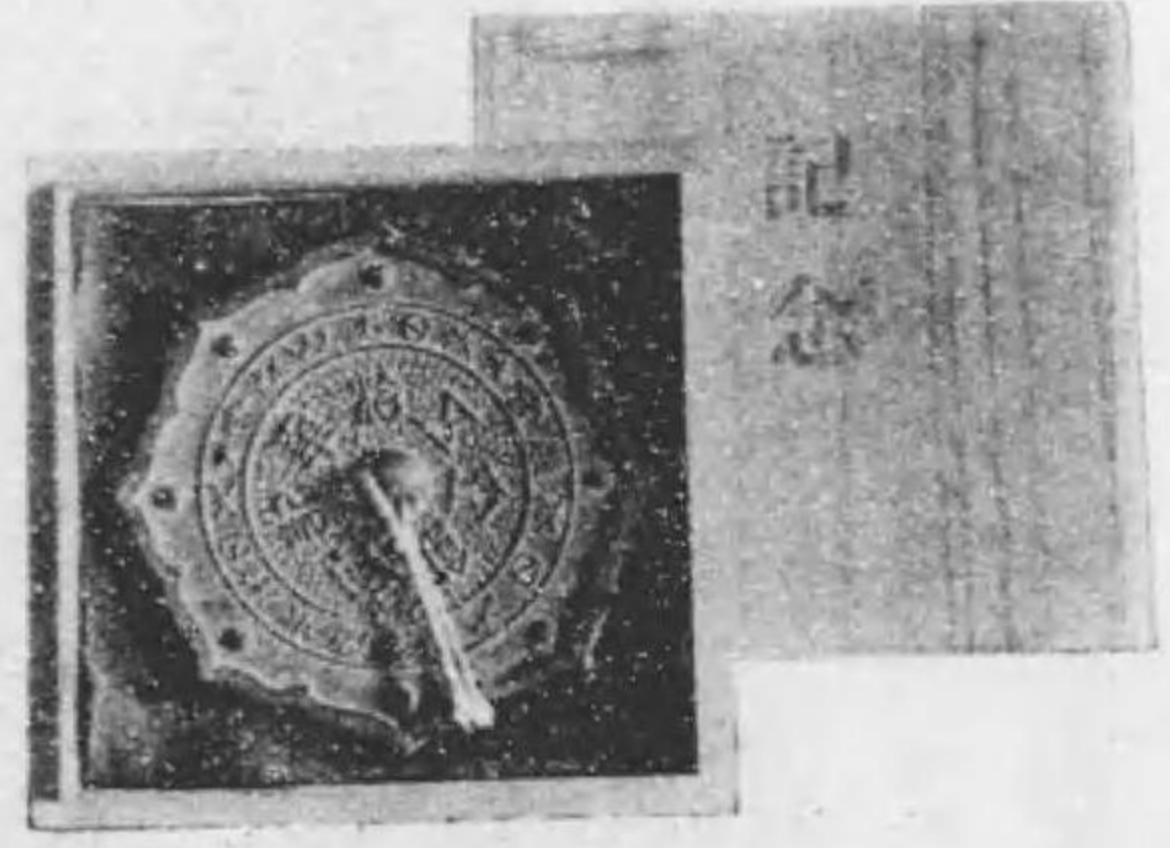




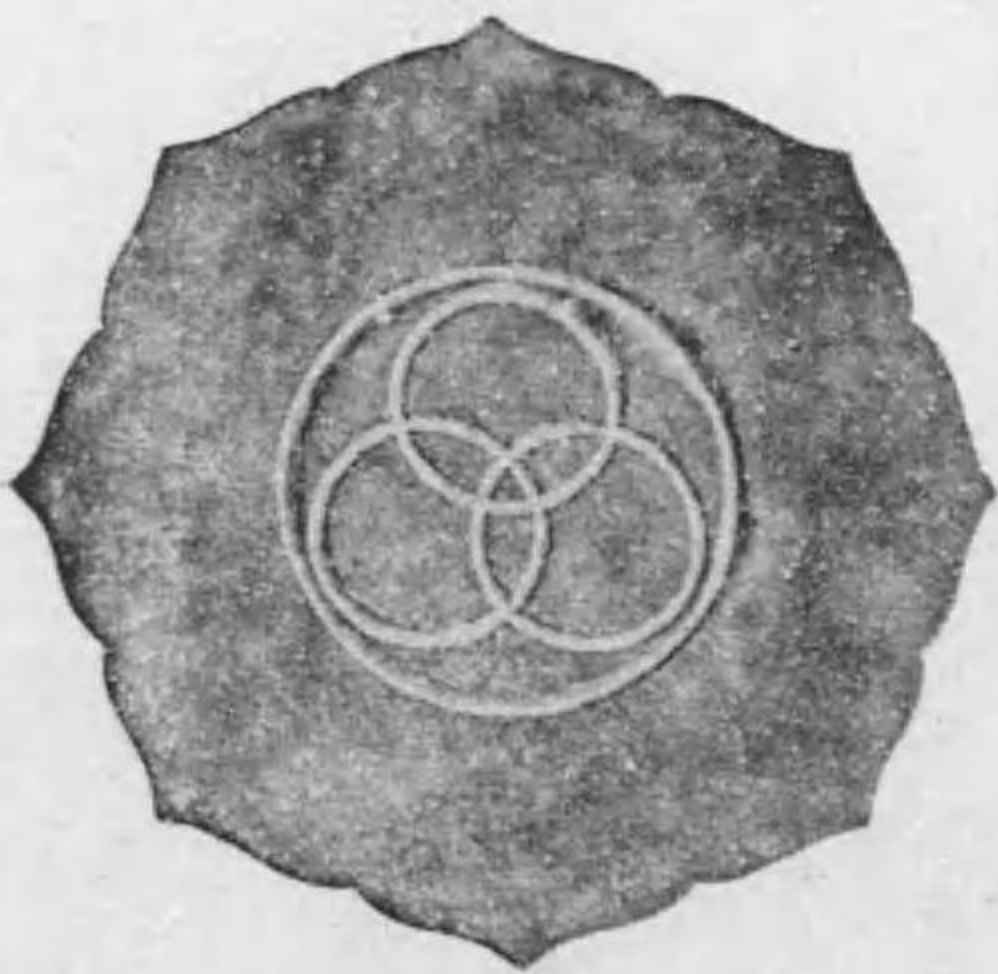
創立五十年記念章  
 (明治五十年・本會創立年)  
 (入會したる現在會員へ贈呈)



記念品  
 (右同)



記念品



(面裏) 右同

工學博士 男 爵 古市公威君略歴

(東京府豊多摩郡澁谷町常盤松一八)

君は舊姫路藩士古市孝氏の長男として安政元年七月十二日姫路城下に生れ、幼名を兵五郎又は造男と稱す。明治十二年家督相續す。

君資性明敏、夙に開成學校及大學南校に學び、明治八年選ばれて佛國に留學を命ぜられ「エコール・サントラル大學」を卒業して「エンジュニユール・デ・アル・エ・マニユファクチュール」の學位及び「バリ大學」に於て「リサンシエ・エスシアンス・マテマチック」の學位を得、同十三年歸朝後、内務技師、帝國大學工科大学教授、同學長、内務省土木局長、内務技監、逓信次官、逓信總務長官、同官房長、鐵道作業局長官、京釜鐵道株式會社總裁、韓國統監府鐵道管理局長官等に歴任し、明治四十年官を辭し實業界に入りしが、大正十三年樞密顧問官に親任せられ現在に至る。

其間、明治二十一年には工學博士の學位を授與、同二十三年第一期帝國議會の貴族院議員に勅選、同年藍綬褒章を、同三十九年には勳一等に叙し瑞寶章を授與せられ、大正三年帝國學士院會員仰付けられ、同六年選ばれて財團法人理化學研究所長を委囑せらる、また大正八年には勳功に依り特に華族に列し男爵を授けられ、昭和二年正三位に叙し、同四年勳一等旭日大綬章を授與せらる。

即ち君は我が土木學界の先覺として夙に要路に在り、その盡されたる勳功、擧げて數ふべからず、今や壽齡正に七十有八、學界の耆宿として令名天下に周し、而して君が初めて本會に入會せられしは實に明治十五年二月、即ち本會創立



匆々の際にして、同藩出身者にして親交あり本會創立者の一人たる武井守正氏の徳意に依るものなりといふ。爾來特別會員として終始渝らず、明治三十九年四月、本會創立二十五年記念總會に於ては創立以來の會員として記念銀章を今又茲に創立五十年記念會に方り、記念品及び記念金章を贈呈せらるることとなりしは洵に目出度き極みと謂ふべし。

### 現官職

○正三位、勳一等(旭日大綬章)、工學博士、男爵、○樞密顧問官、○帝國學士院會員、○東京帝國大學名譽教授、○鐵道會議々員、○震災豫防評議會評議員、○臨時電氣調査會委員、○營繕管財局顧問、○工業品規格統一調査委員

○日本工學會々長、○日本動力協會々長、○博覽會俱樂部會長、○萬年會々長、○土木學會前會長、○港灣協會副會長、○鐵道協會名譽會員、○アメリカン・ソサエティー・オブ・シビリエンジニアス名譽會員、○ロンドン・シンシシアンズ・オブ・シビリエンジニアス名譽會員、○其他各種團體の理事評議員等(削略)

## 江崎政忠君略歴

(大阪市北區新川崎町一)

君は信州松本藩士江崎政國氏の長男として慶應元年九月四日を以て生る。舊名惠一郎と稱し、明治三十八年家督相續す。明治十三年、十六歳、初めて笈を負ふて東都に遊學、東京外國語學校、東京大學豫備門に學びしが、同十五年東京山林學校の創設せらるるや、直ちに其募集に應じ百餘名の志願者中合格せしは四十五名、君はその第三席を以て入學、

爾來首席を占め終始之を他に譲らず、同十九年、我國に於て正式の林學教育を受けたる第一回生として林學科全科を卒業せり。其間學制の改廢に依りて山林學校は東京農林學校となり、更に同校は帝國大學に合併せられしが爲め二十二年には林學士の稱號を得たり。

學校卒業後直ちに大林區署又は農商務省に勤務せしが、明治二十四年御料局に轉じ、技師試補に任ぜられ、二十五年山林課長に、二十六年には技師に進み、其後、地籍課長、整理課長等をも兼ね、三十年には林業視察の爲め歐洲各國へ出張を命ぜられ三十一年歸朝、四十三年高等官二等に陞叙、翌四十四年官を辭し、從四位勳四等に叙せらる。

其間全国各地の林野を巡廻調査し、また御料地拂下處分審査委員、御料地に關する諸規則草案調査委員、上野公園修理調査委員、臨時御料局歳計及御料地積調査委員、山梨縣下御料地審査員等として、御料林野の制度確立に盡瘁せし功勞洵に尠からざるものあり。尙在官中、全國各府縣の地方森林會議員、東京市臨時水源林經營調査委員會顧問、山梨縣臨時林野調査顧問等となり、また博覽會、共進會の審査官、理事官等に擧げられしが、特に明治三十六年第五回内國勸業博覽會には審査官として周到綿密能く其職務に服したる廉に依り勅定の藍綬褒章を授與せられたり。

退官と同時に、合名會社鴻池銀行監事、大阪倉庫株式會社監事、鴻池家監事に擧げられ、爾後、大正八年鴻池家勇退後も或は東洋木材防腐株式會社專務取締役となり、或は現任の諸會社の重役に列し、また最近には再び鴻池家監事となり、大阪に於ける實業界に活躍されつつあるは、我林學出身者として稀に見る所なり。

君が本會に入會せられしは明治十五年二月にして、本會創立匆々の時に當り、而も未だ林學生たらざるの時既に入會せられたるは山林國の出生たりと雖も、又異常なる特志と謂はざるべからず。而して明治二十二年九月特別會員となり、



同三十九年四月、本會創立二十五年記念總會には記念銀章を贈られ、同年より四十二年迄幹事に選任せられ、また二十年以來今日まで評議員又は常議員として、本會の爲め盡されし功頗る大なり。

#### 現職

○從四位、勳四等、林學士、○株式會社川崎電球製作所取締役社長、○越中絹織株式會社監査役、○株式會社昌榮堂印刷所監査役、○大井川電力株式會社取締役、○鴻池男爵家監事、○財團法人帝國森林會理事、○社團法人大日本山林會常議員、○社團法人大阪府山林會理事、○財團法人聖德太子奉讃會理事、○大阪府史跡名勝天然記念物保存會顧問、○奈良縣大神神社神山保護調査會顧問、○財團法人懷德堂評議員、○財團法人岩倉公舊蹟保存會評議員、○社團法人清交社監事、○社團法人大阪經濟會評議員、○吉野神宮奉贊會理事、○醍醐天皇一千年御忌奉贊會理事、○弘法大師報讃會理事、○洗心洞文庫理事、○浪速叢書刊行會代表理事、○有限責任浪速購買組合理事、○有限責任建築利用信用購買組合理事、○大阪綠藍會常任幹事、○文樂會幹事

### 森田文字君略歴

(群馬縣群馬郡明治村大字上野田四一番地)

君は嘉永四年十月十三日、ベルリ事件に就て父、江戸出府中、上野國上野田、桃井館(頼朝の臣桃井八郎の遺館と傳ふ)に生る、里正、森田衛門重信の分家文字之助重庸の末子なり、幼名庸八郎。明治三年一月十四日家督相續、文字之助重孝と稱す、後藩命に依り之助を廢す。

幼にして祖父重信、叔父重謙に就き持明院流の手習を、神職狩野利房、藩士佐々木修三に漢籍の講義を受け、劍は森田傳左衛門重久(流祖從四位武藏守信綱)に師事して其奥儀を極め、神影流の免許皆傳を受けたり。また佐々木愚山、齋藤秀畝、船津傳次兵衛、小澤某等の農事熱心家と常に交り、農藝殖産の途を講究せり、父重庸も夙に殖産開墾の業に熱心にして二宮金次郎の徳風を慕ひ、爲めに其子弟は總て之を其門に入らしむ、君が農林の業に精勵熱心せしも亦偶然にあらざるなり。而して父君が江戸出府の機多かりしが故に君は弱冠にして父に代り家業一切を辨ぜり、明治六年群馬縣北第九大區第八小區の衛生委員に擧げられしを公職の初めとし、同八年には戸長、上野田村立會人、同十二年上野田村外三ヶ村聯合村會議員及び戸長に選ばる、また同年國母陛下の行啓に際し同家を御小憩所に當てらるゝ恩命に浴し、君は臨時御用掛として、奉仕するの光榮を擔へり。爾來村長、村農會長、學務委員、林野取締組合理事長等各種の公職に就き、或は堰堤を修めて村内の水論を解決し、或は墓地の紛争を收め、或は松、杉、檜、樺、漆、櫻等の苗木を仕立て、山地に植栽、其範を一般に示し、或は火力養蠶法を擴め、桑園の改良、農耕の改善を奨むる等郷黨の利福増進に努めしこと尠なからず。

君が本會に入會せられしは明治十五年十二月にして、同三十九年四月舉行の本會創立二十五年記念總會に當り記念銀章を贈られしが、今又創立五十年記念會に於て記念品及記念金章を授與せらるゝの榮を負へり。



# 大日本山林會繼續二十五年會員章受領者(昭和六年)

(六月六日)

府縣	氏名	(入會年次) (明治)	府縣	氏名	(入會年次) (明治)	府縣	氏名	(入會年次) (明治)
愛知	安達幸三郎	(三〇)	栃木	荒川眞文	(三八)	鳥取	石谷源藏	(三三)
福岡	安部成廉	(三七)	臺灣	荒卯三郎	(三八)	東京	石原留雄	(二三)
新潟	安藤時雄	(三五)	東京	有田正盛	(一九)	島根	石津平造	(三六)
島根	足立啓治郎	(三九)	愛媛	井部榮基	(三一)	關東州	磯田信之助	(三九)
奈良	足達保次郎	(三二)	北海道	井上重則	(三七)	靜岡	磯山廣居	(一六)
栃木	足尾鑛業所	(四〇)	愛知	井上正國	(三八)	靜岡	市川始太郎	(三五)
徳島	阿佐宇治郎	(三九)	群馬	井上久次郎	(三九)	栃木	出雲儀作	(三〇)
大分	合谷三郎	(三二)	東京	伊藤正慶	(三三)	臺灣	稻村時衛	(三四)
神奈川	相川文五郎	(二一)	臺灣	伊藤太右衛門	(三八)	愛知	乾貞夫	(四〇)
北海道	青木庄五郎	(三九)	岩手	伊藤熊三郎	(三九)	東京	今枝直規	(二四)
三重	青木源次郎	(三三)	兵庫	伊藤長次郎	(四〇)	同	今川唯市	(三三)
靜岡	青木善次郎	(三五)	秋田	伊東俊雄	(三四)	鳥取	入澤廉	(四〇)
同	青木恒夫	(三九)	山口	猪瀬喜久	(三八)	東京	岩田貢一	(三八)
熊本	赤星重繼	(四〇)	秋田	飯塚忠助	(一九)	和歌山	岩田廣金	(四〇)
東京	明石敬東	(二一)	群馬	飯塚清	(三六)	石川	岩間清水	(四〇)
千葉	明石敬治	(三五)	茨城	飯村定吉	(三七)	福岡	宇都宮寛	(二四)
秋田	秋田山林會	(三〇)	愛知	生田治産	(三三)	廣島	宇野英一	(四〇)
福岡	麻生太吉	(三一)						

府縣	氏名	(入會年次) (明治)	府縣	氏名	(入會年次) (明治)	府縣	氏名	(入會年次) (明治)
朝鮮	宇野重一	(四〇)	鹿兒島	小笠原寛	(三七)	福岡	岡野信一郎	(三九)
秋田	宇野健吉	(四〇)	靜岡	小川重雄	(四〇)	東京	岡部喜平	(二九)
臺灣	鶴澤信一	(三九)	高知	小澤珣平	(四〇)	福島	岡村喜代策	(四〇)
島根	鶴飼政義	(三六)	靜岡	小野文男	(四〇)	青森	岡本伊八	(三四)
朝鮮	植木秀幹	(三六)	山梨	小野田幾太郎	(三二)	宮崎	岡本英夫	(四〇)
北海道	植松健	(三三)	靜岡	小幡憲次郎	(四〇)	青森	沖本良昭	(四〇)
和歌山	植松新十郎	(三三)	高知	尾崎元次郎	(三三)	東京	萩野善五郎	(四〇)
福岡	植村恒三郎	(三八)	靜岡	尾崎卓太郎	(二六)	兵庫	奥田貞衛	(二四)
三重	植村藤助	(三八)	同	大可賀有爲	(三九)	同	奥田直常	(四〇)
岡山	内田證一郎	(三六)	朝鮮	大河平隆正	(三三)	同	奥谷千代也	(二四)
東京	内田隆治	(二七)	鹿兒島	大澤兼治	(四〇)	神奈川	奥津喬治郎	(三九)
岡山	内田龍平	(三三)	同	大塚新次郎	(三九)	同	カの部	
徳島	梅木正衛	(二一)	北海道	大塚新一郎	(三五)	愛知	加藤恂四郎	(四〇)
秋田	梅原延廣	(三九)	福島	大塚新一郎	(三五)	同	加藤孝二	(三五)
三重	梅原正衛	(三九)	臺灣	大橋準一郎	(四〇)	朝鮮	加藤兵次	(三五)
鹿兒島	浦原正衛	(三九)	臺	大橋健吉	(三三)	宮城	海藤八郎	(二四)
東京	漆山雅喜	(二七)	愛知	大林保吉	(三九)	朝鮮	掛場定吉	(三八)
同	工・エの部		島根	太田助太郎	(三四)	兵庫	梶谷龜松	(三六)
大分	江崎政忠	(一五)	靜岡	太田寅吉	(三八)	東京	柏木吾市	(三八)
滋賀	江畑献之允	(三四)	同	岡田丞太郎	(三三)	青森	片山吉成	(一六)
和歌山	榎本傳治	(三九)	朝鮮	岡田彌兵衛	(三七)	靜岡	片山和吉	(三五)
長野	海老原颯	(四〇)	徳島	岡野廣治	(三六)	群馬	勝井太藏	(三四)
岩手	遠藤重兵衛	(三二)	朝鮮	岡野廣治	(三六)	長野	金井澄水	(四〇)



愛知	福岡	臺灣	和歌山	山梨	廣島	山形	北海道	栃木	愛知	東京	兵庫	秋田	神奈川	鳥取	北海道	沖繩	北海道	南滿洲	京都	神奈川	岐阜	福岡	
小出	小坂	小島	小早川	小林	小柳	小柳	小柳	小山	小山	小山	後藤	後藤	幸勝	幸勝	近藤	近藤	近藤	近藤	近藤	近藤	近藤	近藤	近藤
豊	壽夫	宗四郎	九輔	鷹	吉	治	治	治	治	治	治	治	治	治	治	治	治	治	治	治	治	治	治
(三五)	(三七)	(三八)	(三七)	(三三)	(三八)	(三九)	(四〇)	(二一)	(三〇)	(三九)	(四〇)	(三五)	(三八)	(四〇)	(三五)	(三五)	(四〇)	(三六)	(二九)	(三五)	(三五)	(三五)	(三八)

宮崎	愛知	岩手	三重	群馬	大分	東京	宮城	福島	宮城	宮城	宮城	宮城	宮城	宮城	宮城	宮城	宮城	宮城	宮城	宮城	宮城	宮城	宮城
佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木
磐多	信	隆次郎	隆次郎	隆次郎	隆次郎	隆次郎	隆次郎	隆次郎	隆次郎	隆次郎	隆次郎	隆次郎	隆次郎	隆次郎	隆次郎	隆次郎	隆次郎	隆次郎	隆次郎	隆次郎	隆次郎	隆次郎	隆次郎
(三四)	(二五)	(一八)	(三八)	(三〇)	(三三)	(二〇)	(三八)	(四〇)	(三九)	(三三)	(三三)	(三三)	(三三)	(三三)	(三三)	(三三)	(三三)	(三三)	(三三)	(三三)	(三三)	(三三)	(三三)

和歌山	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京
志賀	志賀	志賀	志賀	志賀	志賀	志賀	志賀	志賀	志賀	志賀	志賀	志賀	志賀	志賀	志賀	志賀	志賀	志賀	志賀	志賀	志賀	志賀	志賀
泰山	泰山	泰山	泰山	泰山	泰山	泰山	泰山	泰山	泰山	泰山	泰山	泰山	泰山	泰山	泰山	泰山	泰山	泰山	泰山	泰山	泰山	泰山	泰山
(一六)	(二〇)	(三三)	(三三)	(三三)	(三三)	(三三)	(三三)	(三三)	(三三)	(三三)	(三三)	(三三)	(三三)	(三三)	(三三)	(三三)	(三三)	(三三)	(三三)	(三三)	(三三)	(三三)	(三三)

秋田	愛知	福岡	三重	靜岡	愛知	東京	靜岡	兵庫	秋田	宮城	東京	北海道	同	山形	鹿兒島	東京	福岡	奈良	奈良	靜岡	愛媛	廣島	徳島
金澤	金田	金子	金子	金子	金子	金子	金子	金子	金子	金子	金子	金子	金子	金子	金子	金子	金子	金子	金子	金子	金子	金子	金子
頼助	治平	敏雄	敏雄	敏雄	敏雄	敏雄	敏雄	敏雄	敏雄	敏雄	敏雄	敏雄	敏雄	敏雄	敏雄	敏雄	敏雄	敏雄	敏雄	敏雄	敏雄	敏雄	敏雄
(三八)	(三五)	(三七)	(三七)	(三七)	(三七)	(三七)	(三七)	(三七)	(三七)	(三七)	(三七)	(三七)	(三七)	(三七)	(三七)	(三七)	(三七)	(三七)	(三七)	(三七)	(三七)	(三七)	(三七)

東京	滿洲	靜岡	東京	大阪	三重	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京
木村	木村	木村	木村	木村	木村	木村	木村	木村	木村	木村	木村	木村	木村	木村	木村	木村	木村	木村	木村	木村	木村	木村	木村
喬顯	孝智	豐次郎	源兵衛	圭三	健吾	伊三郎	春之助	玉樹	豐次郎	榮喜	信吉	清治	正夫	山林會	三郎	梅松	牛太郎	三郎	三郎	三郎	三郎	三郎	三郎
(二五)	(四〇)	(三七)	(三九)	(三九)	(三九)	(二四)	(三九)	(二五)	(二八)	(三九)	(四〇)	(一九)	(三〇)	(三五)	(二五)	(三四)	(三八)	(三〇)	(二五)	(二五)	(二五)	(二五)	(二五)

青森	朝賀	佐賀	京都	東京	東京	滋賀	臺南	岐阜	愛媛	長野	長野	山梨	朝鮮	福岡	長野	奈良	奈良	愛媛	茨城	長野	茨城	朝鮮	群馬
工藤	工藤	草野	楠	楠	楠	楠	楠	楠	楠	楠	楠	楠	楠	楠	楠	楠	楠	楠	楠	楠	楠	楠	楠
廣義	義公	鼎	八十兵衛	八十兵衛	八十兵衛	八十兵衛	八十兵衛	八十兵衛	八十兵衛	八十兵衛	八十兵衛	八十兵衛	八十兵衛	八十兵衛	八十兵衛	八十兵衛	八十兵衛	八十兵衛	八十兵衛	八十兵衛	八十兵衛	八十兵衛	八十兵衛
(四〇)	(三八)	(三四)	(三八)	(三八)	(三八)	(三八)	(三八)	(三八)	(三八)	(三八)	(三八)	(三八)	(三八)	(三八)	(三八)	(三八)	(三八)	(三八)	(三八)	(三八)	(三八)	(三八)	(三八)



茨城	須藤清作	(三九)	鹿兒島	妹尾角治	(三九)	宮崎	高妻秀季	(三四)
大分	須山温圭	(四〇)	宮城	瀨尾啓次郎	(四〇)	長野	高橋作次	(三六)
福岡	諏訪卯三郎	(二一)	青森	清野正爾	(四〇)	北海道	高橋新民	(四〇)
大阪	陶師政次	(四〇)	京都	關一馬	(二五)	東京	高橋琢也	(一九)
奈良	陶原中三郎	(三三)	北海道	關口信介	(三九)	岐阜	高橋鐵次郎	(三二)
兵庫	杉浦兼作	(三八)	東京	千本停三郎	(二七)	千葉	高橋孫治郎	(二九)
静岡	杉浦彗作	(三三)	鹿兒島	曾木俊彦	(三五)	秋田	高久多吉	(三一)
東京	杉崎森藏	(二〇)	長野	曾山直一郎	(三三)	香川	高丸伊平	(三九)
大阪	杉村正太郎	(二九)	秋田	田口慶之助	(四〇)	東京	高見澤清	(三〇)
福井	杉村林業事務所	(四〇)	大分	田平寛	(四〇)	朝鮮	竹内濱吉	(三八)
樺太	鈴木木要	(三九)	長野	田中誠潔	(四〇)	東京	竹村新十郎	(三三)
岐阜	鈴木寛一	(四〇)	東京	田中吉	(四〇)	茨城	武井鈴男	(二四)
神奈川	鈴木久彌	(二八)	長野	田中	(四〇)	東京	武田正次郎	(二二)
和歌山	鈴木喜平治	(三六)	埼玉	田中彦右衛門	(三五)	栃木	武田沼文吉	(三一)
新潟	鈴木倉太郎	(三七)	東京	田中八百八	(四〇)	石川	谷光源藏	(三五)
静岡	鈴木信一	(二九)	長野	田中勇太郎	(二一)	北海道	谷本勇造	(三九)
東京	鈴木茂次	(三四)	東京	田中由十郎	(三五)	和歌山	特 玉石磨禮彦	(三三)
同	鈴木清次	(三九)	同	田中隆三	(三九)	北海道	特 長野秀雄	(四〇)
愛知	鈴木惣兵衛	(三五)	群馬	田中吟重	(四〇)	茨城	知野秀雄	(四〇)
同	鈴木豊太郎	(三三)	静岡	高岡幾也	(二七)	北海道	特 長義連	(三六)
愛知	鈴木儀助	(三五)	東京	高須時太郎	(三五)	岐阜	塚木式三郎	(三九)
廣島	住友別子鑛山株式會社	(四〇)	大分	高瀬三郎	(四〇)			
愛媛	住友別子鑛山株式會社	(三六)						

樺太	辻村常助	(四〇)	東京	特 内藤確介	(二六)	同	特 長倉純一郎	(二七)
東京	辻村常助	(四〇)	福岡	名 中井勵作	(三九)	山形	特 長澤英賢	(三〇)
同	土屋榮太郎	(二一)	奈良	中尾橋	(三五)	東京	特 長島吾助	(四〇)
新潟	坪倉藤三郎	(三五)	静岡	中川卓	(三八)	秋田	長沼巖	(三八)
鳥取	坪谷誠悟	(四〇)	東京	中川仲之進	(三八)	青森	特 成見唯七	(二六)
同	鶴巻龜太郎	(三四)	同	中川金治	(三四)	神奈川	難波菊次郎	(四〇)
東京	寺尾辰之助	(三五)	京都	中里正	(三四)	鹿兒島	二階堂行敏	(三五)
長野	寺澤定治	(三四)	兵庫	中島英治	(三八)	北海道	新瀉縣立加茂農林學校友會	(四〇)
福岡	特 照山滋	(三〇)	群馬	中島綱太郎	(三三)	新潟	特 新島善直	(二五)
三重	特 土井八郎兵衛	(三一)	京都	中西竹二郎	(三一)	鹿兒島	西力造	(三九)
大阪	土肥俊	(三九)	奈良	中野利右衛門	(二七)	大阪	西尾三治	(三九)
大分	土塚又次郎	(三三)	同	中野利三郎	(三一)	東京	特 西大路吉光	(三一)
朝鮮	戸塚房吉	(四〇)	兵庫	中原正虎	(三九)	同	西垣晋作	(四〇)
同	戸塚房吉	(四〇)	長野	中村義太郎	(三〇)	兵庫	西垣貞藏	(三九)
東京	特 東郷直	(二七)	長野	中村義太郎	(三〇)	長野	特 西ヶ谷正己	(三四)
石川	時國甫太郎	(三一)	北海道	中村五郎	(一七)	山梨	西川重保	(三五)
高知	特 徳本孝也	(三七)	東京	中牟田五郎	(一九)	東京	特 西川末三	(三七)
神奈川	特 殿岡幸治郎	(二五)	長野	中牟田五郎	(一九)	東京	特 西澤静人	(三七)
新田	富田重明	(三六)	兵庫	中山發郎	(三八)	東京	特 西山又二	(二五)
秋田	富所耐志	(四〇)	同	永井久辰	(三四)	岐阜	特 西山熊吉	(三六)
新潟	富永虎太郎	(三八)	徳島	永根信雄	(四〇)	大阪	特 西山忠太	(三〇)
東京	特 豊島恕清	(四〇)	東京	永山止米郎	(三五)	宮城	沼田清五郎	(四〇)
同	特 鳥羽常政	(二〇)						



福井	静岡	新潟	東京	岩手	鹿兒島	東京	愛知	静岡	岡山	東京	朝鮮	岡山	東京	三重	北海道	島根	東京	朝鮮	群馬	大阪	東京	三重			
三田村民藏	三谷平之助	三浦美登里	三浦常雄	三浦第二郎	萬年信吉	丸山喜兵衛	丸山佐四郎	丸尾鎌三郎	松本純爾	松本正己	松村繁朶	松村壽樹	松野義次	松永忠兵衛	松田善三郎	松島啓太郎	松方正熊	松浦實親	町田庄藏	増田作十	正木信次郎	前島榮祐			
(三七)	(三九)	(四〇)	(三四)	(三八)	(三二)	(三三)	(三九)	(三三)	(四〇)	(二九)	(三五)	(三八)	(二七)	(二二)	(三六)	(三五)	(三五)	(三九)	(三三)	(三八)	(三八)	(二四)			
秋田	大阪	山形	岐阜	東京	樺太	岩手	熊本	兵庫	東京	長野	香川	東京	石川	愛知	新潟	東京	朝鮮	東京	同	東京	愛知	廣島			
村田爲治	村上正彦	村井三雄藏	武藤庸德	武藤益藏	武藤忠吉	宮下仙五郎	宮下辰三	宮崎直作	宮崎恒隆	宮北米藏	峰田重憲	南勝右衛門	淡賢治	綠川祿	右田半四郎	三井合名會社	三村鐘三郎	三溝謹平	深田雅治	福田忠平	福田壬午	福田亮輔	福田善十郎	藤原修幹	藤井伴助
(三七)	(四〇)	(二七)	(三三)	(三八)	(三六)	(三六)	(三四)	(三二)	(三三)	(三五)	(二五)	(三八)	(三九)	(二二)	(二二)	(四〇)	(三三)	(三三)	(三八)	(三三)	(三三)	(三五)	(三六)	(三八)	(四〇)
東京	三重	東京	栃木	兵庫	千葉	奈良	東京	北海道	山形	兵庫	福岡	和歌山	東京	宮崎	東京	群馬	廣島	東京	兵庫	東京	東京	東京	茨城		
山村龜太郎	山中道一	山田三郎	山田貞一	山下丹次郎	柳田由藏	柳原耕三	安積春次	矢野政雄	矢田英輔	八木條次郎	八戸道雄	森健三郎	森忠三郎	森健三郎	森田俊左	森田文久	諸戸北郎	八木條次郎	八戸道雄	八戸道雄	八戸道雄	八戸道雄	八戸道雄	八戸道雄	
(二七)	(四〇)	(三六)	(三九)	(三二)	(三六)	(四〇)	(三五)	(四〇)	(三九)	(二二)	(二二)	(二二)	(二二)	(二二)	(二二)	(二二)	(二二)	(二二)	(二二)	(二二)	(二二)	(二二)	(二二)	(二二)	

德島	同	北海道	三重	青森	東京	新潟	秋田	兵庫	石川	熊本	静岡	島根	同	東京	新潟	秋田	岡山	北海道	山梨	静岡	栃木
伊代次	常夫	駒之助	速水健治郎	早川正文	濱野文次郎	旗野美乃里	畠中福八	畑作藏	橋本修次	橋本武次郎	萩原太郎次郎	萩原啓次郎	波多野義男	波多野英太郎	羽生氏俊	延井九二一	野村武左衛門	野村榮二	野尻貞一	野澤滿一	野澤滿一
(三九)	(三六)	(二二)	(二五)	(三五)	(三五)	(二八)	(三八)	(三四)	(三六)	(二二)	(二七)	(三六)	(三五)	(三八)	(三八)	(三七)	(三九)	(四〇)	(一八)	(三〇)	(三〇)
富山	山口	東京	栃木	山梨	岐阜	東京	群馬	宮城	岐阜	廣島	愛知	同	奈良	東京	愛媛	千葉	朝鮮	新潟	愛知	東京	埼玉
藤井伴助	藤井幹	福田善十郎	福田亮輔	福田壬午	福田忠平	深田雅治	深田雅治	廣瀬磯右衛門	廣瀬磯右衛門	平塚爲雄	平木淺藏	平石新藏	平井太郎	東久世通敏	東宇和郡農會	樋口克己	樋口才之丈	肥田野才之丈	日比野肇	原保太郎	原菊藏
(四〇)	(三三)	(三六)	(三五)	(三三)	(三三)	(三八)	(三八)	(三二)	(三二)	(三八)	(四〇)	(三二)	(三二)	(二八)	(四〇)	(三八)	(四〇)	(三七)	(三四)	(三二)	(三七)
山梨	愛知	同	東京	兵庫	山口	三重	京都	東京	長野	栃木	福岡	東京	岐阜	愛媛	鹿兒島	兵庫	鳥取	岡山	同	東京	茨城
前田芳太郎	前田左兵衛	本郷高徳	本郷高徳	堀田英治	堀田諫吾	堀内鶴雄	堀重助	堀重助	細川賢一	古川良雄	古川良雄	古市公威	船戸忠左衛門	船野義行	淵野旭子	藤原善吉	藤原善吉	藤原康雄	藤田濱之助	藤岡光長	藤枝俊信
(三三)	(三二)	(二五)	(三一)	(二八)	(三四)	(二九)	(四〇)	(四〇)	(三四)	(三九)	(三九)	(一五)	(三五)	(一六)	(三四)	(四〇)	(三五)	(三三)	(三五)	(四〇)	(二九)



德島	宮城	樺太	東京	茨城	東京	長野	北海道	秋田	三重	山形	東京	新潟	兵庫	官崎	兵庫	熊本	長野	岡山	奈良	愛知	
吉野	吉成	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉岡	横山	横山	横田	依田	湯淺	弓納	山脇	山本	山本	山本	山本	山本	山本	
五郎	貞助	仙男	復三	信二	喜八郎	義一	豪雄	朝之丞	長藏	光夫	貞種	新平	持孝	延吉	和藏	樹吉	秀規	虎之助	德三郎	本源吉	
(三八)	(三六)	(三八)	(三七)	(二二)	(三八)	(三六)	(三八)	(二二)	(三九)	(三九)	(三八)	(四〇)	(三五)	(三六)	(四〇)	(四〇)	(三六)	(三五)	(四〇)	(三三)	(二八)

島根	東京	秋田	朝鮮	愛媛	大阪	東京	東京	朝鮮	宮城	東京	奈良	北海道
渡部	渡邊	渡邊	渡邊	渡邊	渡邊	鷺澤	脇水	若井	和田	和田	好川	吉村
勝意	全	文八郎	爲吉	吾一	音吉	忠治	五郎	浩	周造	次郎	忠一	新藏
(三九)	(三五)	(三一)	(三三)	(四〇)	(三三)	(三六)	(二九)	(四〇)	(三六)	(二八)	(二四)	(三八)

昭和六年十二月廿二日印刷  
昭和六年十二月廿五日發行

東京市赤坂區溜池町一丁目  
發行所 大日本山林會  
電話赤坂一六七番  
振替東京五七九二番

東京市赤坂區溜池町一丁目  
發行所 宮田長次郎  
東京市豊町區尾井町三  
副所 甲田藤太郎  
東京市豊町區尾井町三  
副所 東京印刷株式會社豐町出張所



終

